

CentreCOM® 8224SL リリースノート

この度は、CentreCOM 8224SL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 4.0.13J

2 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン4.0.11Jから4.0.13Jへのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。


- 2.1 IGMPスヌーピング機能有効時、グループに登録されていないホストから、Leave Groupメッセージを25パケット以上連続して受信すると、その後、IGMP Reportメッセージを受信しても、MACアドレステーブルにIGMPグループのアドレスが登録されませんでした。これを修正しました。
- 2.2 デフォルトVLAN以外のVLANで送信元MACアドレスがすべて0(ゼロ)のパケットを受信すると、該当のMACアドレスが学習されていましたが、これを修正しました。
- 2.3 タグ付きのIGMPメッセージ送出時に、ユーザープライオリティーが0(ゼロ)に書き替えられていましたが、これを修正しました。
- 2.4 FTPを使用してソフトウェアを「config.txt」に転送した場合、およびTFTPを使用してソフトウェアをASCIIモードで「config」に転送した場合に、本製品がハングアップしていましたが、これを修正しました。
- 2.5 メニューで新規VLANの定義(Add new table entry)を行うときに、VLAN名を指定せず、所属ポートのみを設定して前の画面に戻ると、自動的に割り振られたVLAN IDが使用済みとみなされ、同VLAN IDのVLANを作成できなくなっていました。これを修正しました。
- 2.6 ポートセキュリティのSecureモード時、セキュリティ対象外のポートに登録されているスタティックMACアドレスが削除されていましたが、これを修正しました。
- 2.7 メニュー画面からMACアドレステーブル上のMACアドレスの指定によるポートの検索(Get Port From MAC Address)を行った場合、ポートの所属VLANが正しく表示されませんでした。これを修正しました。
- 2.8 IGMPスヌーピング有効時に、本製品に存在しないVLAN IDを持つIGMP Membership Reportメッセージを受信すると、そのグループがMACアドレステーブルに登録されていましたが、これを修正しました。

- 2.9 パケット通信中に、トランクグループ内で一番小さい番号のポートを抜き差しすると、リンクアップトラップが送出されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.10 トラップがトランクポート経由で送出されると、トランクグループ内の全ポートに同トラップが1個ずつ送信されていましたが、これを修正しました。
- 2.11 ポートセキュリティのLimited/Dynamic Limitedモード時、MACアドレスの登録数が上限に達していても、未学習のMACアドレスを持つIGMP QueryおよびReportメッセージはフラッディングされていましたが、これを修正しました。
- 2.12 VLANとスタティックMACアドレスが多数登録されている設定ファイルを、FTPまたはTFTPでダウンロード・アップロードした場合、ウォッチドッグ機能により、タイムアウトが発生してしまうことがありますが、これを修正しました。
- 2.13 ポートセキュリティの対象となるポートに、スタティックMACアドレスの自動登録機能を設定し、この機能によりスタティックMACアドレスが登録された場合、SAVE コマンドで設定を保存した後で再起動すると、自動登録機能で登録されたスタティックMACアドレスが消去されてしまうことがありますが、これを修正しました。
- 2.14 自動学習によりMACアドレステーブルに登録されたMACアドレスと同一のMACアドレスを、受信ポートとは異なるポートにスタティックMACアドレスとして登録できない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.15 マルチプルVLANモード時、ポートセキュリティのセキュリティ対象外のポートにスタティックMACアドレスが登録されている状態で、AutomaticモードからSecureモードに変更すると、対象外のポートにすでに登録されていたスタティックMACアドレスが削除されてしまうことがありますが、これを修正しました。
- 2.16 ポートのリンクアップ・ダウントラップを生成しない(Disable)設定にするか、SNMPからMIB-IIのifLinkUpDownTrapEnableオブジェクトをDisableに設定して本製品を再起動した場合、ifLinkUpDownTrapEnableに対して「0」が返されていましたが、「2」が返されるよう修正しました。
- 2.17 HELP SET SYSTEM コマンドで表示される AGINGTIMER パラメーターの最大値が999(秒)となっていたようですが、412(秒)に修正しました。
- 2.18 マルチプルVLANとポートセキュリティの併用時、本製品を再起動すると本製品宛通信およびスイッチングができなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.19 受信データを処理する過程に誤りがあり、まれに本製品がリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.20 TFTPのダウンロード・アップロード時に使用するソフトウェアのイメージファイル用パスワードと設定ファイル用パスワードに同一の文字列が設定できないよう仕様変更しました。

3 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 4.0.13J には、以下の制限事項があります。

3.1 マルチプルVLANについて

 **参照** 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 141 ページ

マルチプルVLANとスタティックMACアドレスを併用し、設定ファイルをダウンロードすると、スタティックMACアドレスの所属VLANが全てCV1になってしまいます。

3.2 DHCPクライアント機能について

 **参照** 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 78, 220 ページ

DHCPクライアント機能使用時に、DHCPサーバーがネットワークから切り離されているなどして応答がないと、以下のような現象が発生します。

- Renewal Time Value(T1 Timer)の時間が経過するとDHCP requestメッセージが送信されますが、DHCPサーバーから応答がなかった場合、DHCP requestメッセージが再送されません。
- リース時間経過後にDHCP releaseメッセージが送信されず、IPパラメーターが解放されません。また、この状態で本製品を再起動した場合、DHCPサーバーからIPアドレスが取得できないと、ARPパケットに不正なIPアドレスをセットして送信します。

3.3 ポートセキュリティーについて

 **参照** 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 87, 236 ページ

- セキュリティーモード時、未登録のMACアドレスを持つパケットを受信し続けていると、Pingなどの本製品宛の通信ができなくなることがあります。
- スタティックMACアドレスは、通常は学習するMACアドレスの対象としてカウントされませんが、以下の場合にはカウントが行われ、実際に学習されているMACアドレス数とのずれが発生します。
 - ・ セキュリティーモードがLimited/Dynamic Limitedモードのとき、すでに登録されているMACアドレスをスタティックMACアドレスとして登録した場合(→MACアドレス登録数は増加します。)
 - ・ セキュリティーモードがLimitedモードのとき、スタティックMACアドレスとして登録されているアドレスを削除した場合(→MACアドレス登録数は減少します。)

4 マニュアルの訂正と補足

4.1 Xmodemによるソフトウェアのダウンロードについて

 **参照** 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 53, 186 ページ

Xmodemによるソフトウェアのダウンロードについて、付属のマニュアルに以下のメニューオプション、およびコマンドの説明が記載されていますが、これらは本製品に実装されていないので、訂正してお詫びいたします。

メニューオプション

[Main Menu] -> [Administration] -> [XModem software update to this system]

コマンド

LOAD

Xmodemを使用してソフトウェアをダウンロードする場合は、Bootメニューから行ってください。以下に手順を示します。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、またはRESTART REBOOT コマンドを実行して、システムを再起動します。
- 2 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押します。
- 3 Bootメニュー(ATI Diagnostics)が表示されたら、「->」プロンプトに続けて \square を入力し、[X: XMODEM download updated System Software] オプションを選択します。
- 4 リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。


The System is now ready for download. Please start your XMODEM transfer.
cccc

- 5 コンピューター(コンソール)から、ファイルを転送します。
プロトコルタイプは「Xmodem」を選択して通信ソフトウェアのファイル送信を実行します(ファイル転送の手順については、使用している通信ソフトウェアのマニュアルなどをお読みください)。
- 6 ファイル転送が正常に終了すると、次のメッセージが表示されて、システムは自動的に再起動します。

XMODEM transfer has successfully completed. Now writing to Flash PROM.

- 7 「(press RETURN once or twice to enter User Interface)」と表示されたら、 \square キーを押します。
- 8 「Login: 」プロンプトが表示されます。


4.2 起動時の画面表示について

 「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」 32, 45, 66 ページ
「AT-S50 オペレーションマニュアル」 15, 293 ページ

本体起動時(ログイン前)にローカルコンソール画面上に表示されるメッセージに一部誤りがありますので、訂正してお詫びいたします。

- (誤) (press RETURN once or twice to enter Main Menu)
(正) (press RETURN once or twice to enter User Interface)


4.3 メニューでの設定保存時の画面表示について

 「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」 64 ページ
「AT-S50 オペレーションマニュアル」 22 ページ

メニューでの設定の保存 ([Save] を選択) 時、およびログアウト ([Quit] を選択) 時に表示される確認のメッセージに誤りがありますので、訂正してお詫びいたします。

- ⑩ Is configuration saved? (Yes or No):
- ⑪ Do save configuration now? (Yes or No):


4.4 SET MIRROR コマンドの書式について

 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 251 ページ

SET MIRROR コマンドの書式に一部誤りがありますので、訂正してお詫びいたします。

- ⑩ SET MIRROR [SOURCEPORT=mirror-port] [DESTINATIONPORT=port-number]
- ⑪ SET MIRROR [SOURCEPORT=port-number] [DESTINATIONPORT=port-number]

4.5 RMON 統計情報表示について

 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 182 ページ

SHOW PORT COUNTER コマンドで表示される統計情報の説明に RMON 統計情報が記載されていません。訂正してお詫びいたします。各項目の内容は「AT-S50 オペレーションマニュアル」48 ページの表を参照してください。

```

Manager% show port=1 counter 


Port 1 Counter Information
-----
Receive:
Frames          0
Filtered        0
Broadcasts      0
Multicasts      0
CRC Errors      0
Undersized      0
Fragments       0
Long            0

Transmit:
Frames          0
Broadcasts      0
Multicasts      0
Collisions      0
Late Collisions 0

RMON:
64 Byte         0
65-127 Byte     0
128-255 Byte    0
256-511 Byte    0
512-1023 Byte   0
1024-1518 Byte  0
-----

```

4.6 CentreCOM 8224XL からの設定の移行について


 「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」 53 ページ
「AT-S50 オペレーションマニュアル」 294 ページ

本製品は、CentreCOM 8224XL (以下、8224XL) から TFTP によって Get したバイナリの設定ファイル (config.img) を、本製品の FTP/TFTP サーバー機能によって Put し、8224XL の設定を引き継ぐことができます。本製品のみで搭載されている機能については、工場出荷時のデフォルト設定が使用されます。

—例外—


- **ログインパスワード**
本製品はログイン名とログイン名に対応したパスワードによる認証を行うため、8224XL で設定したパスワードは引き継がれません。パスワードはデフォルトの「friend」が設定されます (ログイン名は「manager」)。
- **ポートの MDI/MDI-X 設定**
ポートの MDI/MDI-X 設定は、Fixed MDI-X (MDI-X 固定) になります (本製品のデフォルト設定は Auto MDISet (MDI/MDI-X 自動切替))。

4.7 マルチプル VLAN モードとポートセキュリティの併用について

 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 148 ページ

マルチプル VLAN モードとポートセキュリティを併用した場合、1 つの Uplink VLAN Group (UV と CV のグループ) 内に同一の MAC アドレスを複数登録することはできません。

4.8 電源ケーブルの長さについて

 「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」 14 ページ

「1.1 梱包内容」に記載されている「電源ケーブル」の長さに誤りがありますので、訂正してお詫びいたします。

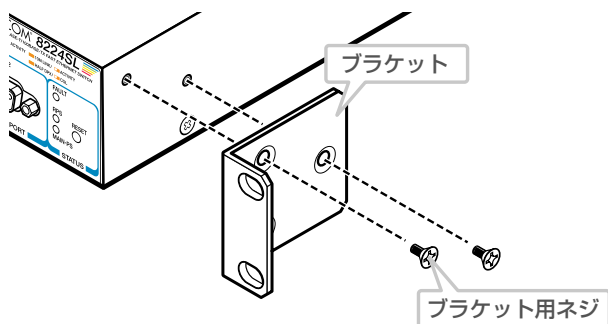
- Ⓜ 電源ケーブル (2m) 1 本
- Ⓝ 電源ケーブル (1.8m) 1 本

4.9 19 インチラックへの取り付けについて

 「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」 14, 20, 24 ページ

製品リビジョンRevC1以降、19インチラック取り付けのためのブラケット用ネジ穴、および同梱のブラケット用ネジの個数が6個から4個になり、ブラケット1個につき2か所を止めるよう仕様変更されましたので、ご注意ください。計4か所の固定でも強度に問題はありません。製品リビジョンは、製品に同梱されている(本体背面に貼付されている)シリアル番号シールに記載されています。

RevC1以降の製品は、ブラケットを下図のように取り付けてください。



なお、ブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱品以外のネジを使用すると、火災、感電、故障の原因となります。

4.10 パケットのプライオリティーの決定について


 「AT-S50 オペレーションマニュアル」 87, 236 ページ

「ポートプライオリティーの割当て」の説明について、以下のとおり補足します。

ユーザープライオリティー値、もしくはポートプライオリティーの設定によって High キューでパケットを受信したときに学習された MAC アドレス宛ての通信は、以下の条件下においては、ユーザープライオリティー7がセットされて送信されます。

- ・受信パケットがタグなしパケットの場合
- ・ポート 1～8, 9～16, 17～24 の各ポートグループ内での通信
- ・デフォルト VLAN 以外の VLAN での通信

4.11 New Address トラップ追加

 「CentreCOM 8224SL 取扱説明書」 60 ページ

「AT-S50 オペレーションマニュアル」 85, 230 ページ

ソフトウェアバージョン4.0.4Jから4.0.11Jへのバージョンアップにおいて、新しいMACアドレス学習時に発行される、New Address トラップが追加されました。デフォルトは「0」で、New Address トラップを送信ないように設定されています。

メニューオプション

[Main Menu] -> [System configuration] -> [SNMP parameters] -> [Trap parameters] に、New Address トラップが追加されました。

コマンド

SET SNMP コマンドに、引数 NEWADDRESS が追加されました。

4.12 トラップの有効/無効の切り替え



「AT-S50 オペレーションマニュアル」 /

「2.4 システム設定」 「3.4 システム設定コマンド」

ソフトウェアバージョン4.0.4Jから4.0.11Jへのバージョンアップにおいて、SNMP 認証トラップおよびポートのリンクアップ/リンクダウントラップを生成する/しないを設定できるようになりました。デフォルトは、SNMP 認証トラップを生成しないように設定され、また、ポートのリンクアップ/ダウントラップを生成するように設定されています。

メニューオプション

[Main Menu] -> [System configuration] に、次のメニューオプションが追加されました。

[SNMP parameters]->[Authenticate Failure Trap]/[LinkUpDownTrap Enable Ports]

コマンド

次のコマンドが追加されました。

```
ENABLE SNMP [AUTHENTICATE_TRAP] [LINKTRAP[={port-list|ALL}]]
```

```
DISABLE SNMP [AUTHENTICATE_TRAP] [LINKTRAP[={port-list|ALL}]]
```

4.13 エージングタイムについて



「AT-S50 オペレーションマニュアル」 67, 201 ページ

ソフトウェアバージョン4.0.4Jから4.0.11Jへのバージョンアップにおいて、エージングタイムとして設定できる最大値が、999(秒)から412(秒)に変更になりました。ソフトウェアバージョン4.0.4J以前で413(秒)以上に設定していた場合は、ソフトウェアのバージョンアップ後、エージングタイムが自動的に412(秒)に設定されます。

4.14 Windows XP(SP2)によるFTPを用いたソフトウェアバージョンアップについて



「AT-S50 オペレーションマニュアル」 294 ページ

WindowsXP (SP2)でファイアウォール機能を有効にしたコンピューターから、FTPを使用してソフトウェアのバージョンアップを行うと、ファイルの転送は正常に終了するものの、フラッシュメモリーへの書き込みが行われません。

※ 通常、ファイルの転送終了後、FTPクライアントでbyeコマンドを実行する(FTPセッションを切断することにより、フラッシュメモリーへの書き込みが開始されますが、ファイアウォール機能が有効の場合、本製品の画面上に以下のエラーメッセージが表示され、バージョンアップが行われません。

「The download has been aborted.」

WindowsXP (SP2)でFTPによるソフトウェアのバージョンアップを行う場合は、ファイアウォール機能を無効にしてください。

ファイアウォール機能を有効にしておく必要がある場合は、TFTP を使用してソフトウェアのバージョンアップを行ってください。